

# 【算数・小3・三角形と角】①

## 育成を目指す資質・能力

(思考力、判断力、表現力等) 二等辺三角形や正三角形について、辺の長さに着目して弁別できることを理解し、表現している。

## ICT活用のポイント

家庭学習課題の配布、問題解決の際のグループ内共同編集、適用問題において定着度を把握

### 【前時～家庭学習】

家庭学習においてストーリーで作った三角形を仲間分けする。

### 【導入】

仲間分けした三角形をグループやクラス全体で共有し、人によって分け方が違うことに気付く。

### 【中心活動】

めあてを提示し、めあてにそって再度仲間分けし、その理由をグループで考える。

### 【まとめ～適用問題】

辺に着目すると3通りに仲間分けできることをまとめる。(定義の確認)

## 事例の概要

### 【前時～家庭学習～導入】

○前時にストーリーで三角形を作る活動を行う。作った三角形について、いろいろな形の三角形がある中で、形が似ている三角形があることに気付かせ、仲間分けの必要感を持たせる。前時終末に、家庭学習として、仲間分けとその理由を考え、学習支援ソフト上に記入してくるよう指示する(学習支援ソフト)。

本時の導入で、家庭学習で仲間分けしたものを持ち寄り、グループ内でグループ分けした理由を共有する。

### 【中心活動】

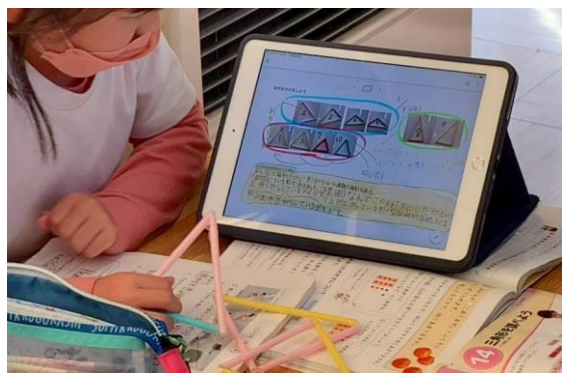
○グループ共有、全体共有を通じて、人によって分け方が違うことに気付かせ、めあて「誰でも同じように仲間分けするにはどこに着目すればよいか」を設定する。どこに着目して仲間分けをすればよいかという視点で再度、グループで仲間分けをする。(学習支援ソフトによる共同編集)

### 【まとめ～適用問題】

○定義を確認した後、三角形の弁別を理由とともに記述させ、共有ドライブに提出する。(共有ドライブ)

# 【算数・小3・三角形と角】②

## 【事例におけるICT活用の場面①】



【写真1】

児童は前日の家庭学習で学習支援ソフトのスライドを用いて三角形を仲間分けしている。写真1はその分け方についてグループ内で共有している場面。

学習支援ソフトには児童が作成した三角形の画像を読み込んでおく。児童は、画像を自由に動かすことができるため、試行錯誤しながら仲間分けができ、視覚的にわかりやすい。また、その後の全体共有でも、大型モニターに映すことで共有がしやすい良さがある。



この三角形、〇〇さんの分け方だと、小さい方に分けられているけど、わたしは大きい方にあるよ。

## 【事例におけるICT活用の場面②】



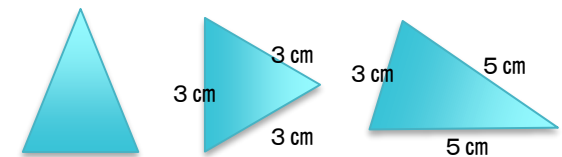
【写真2】

個々の分け方を共有する中で、同じ三角形でも人によって違う分け方をしていることに気付き、「誰でも同じように仲間分けをするためにはどこに着目すればよいか」と問い、めあてを設定した。児童は「誰でも同じように仲間分けする」という視点で、再度、グループ内で仲間分けを考えた。学習支援ソフト上に新しいシートを作り、グループ内で共同編集できるようにした(写真2)。

〇〇さんと〇〇さんが同じ分け方をしているね。

共同編集機能を活用することで、児童の個々の考え方を瞬時に共有でき、友達の考えを参考にしながら個人追究できる。一方で、他の児童が書き込んだものを見るだけでなく編集もできてしまう点において、ICT活用の場面のルール作りや安心してICTが活用できる学級作りなどに留意しなければならない。

### 適用問題の例



【活用したソフトや機能】 学習支援ソフト、共有ドライブ

## 【事例におけるICT活用の場面③】



【写真3】

まとめでは、三角形の定義を確認した後、本時のねらいが達成できたかどうかを把握するために適用問題を行った。右図のような三角形を示し、三角形の種類とそう考えた理由を記述させた。辺の長さに着目して弁別できているかどうかを児童一人一人について確認したい。

ワークシートの記述を撮影し(写真3)、共有ドライブに保存させることで、児童が友達の考えから学びを広げるとともに、教師が理解の状況を把握する評価材料としても活用する。